

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願い

昭和大学附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

2型糖尿病におけるHbA1c、GAおよび1,5-AGと酸化ストレスの関連の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2013年10月1日から2018年12月31日までに当院糖尿病代謝内分泌内科に通院されている2型糖尿病患者さんの中で、3か月以上治療を変更していない方が対象となります。

2. 研究目的・方法

2型糖尿病による血糖変動が酸化ストレスを引き起こすことで、血管内皮機能を低下させ、動脈硬化を進展させることが報告されています。我々は持続血糖測定器(continuous glucose monitoring: 以下CGM検査)によって検査される血糖変動が大きい程、d-ROMsという酸化ストレスの指標が増大することを報告しました。しかし、CGM検査は、実施できる施設が限定され、一部の機器において簡易血糖測定器による較正を要すること等の問題があり多くの患者さんを対象に調べるのは困難です。一方で、通常の血液検査の一環として簡便に測定することが出来る1,5-anhydroglucitol (AG)は、血糖コントロールが安定している患者さんにおいては食後高血糖および血糖変動の鋭敏な指標となります。また、グリコアルブミン(GA)/HbA1cも血糖コントロールが不良の患者さんにおいて、血糖変動の指標となることが報告されています。本研究では、当院に通院している2型糖尿病患者さんを対象にHbA1c、GA及び1,5-AGがd-ROMsという酸化ストレスの指標とどのように関連しているか、診療録を用いて研究します。

研究期間: 医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、病院長の研究実施許可を得てから2019年12月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2013年10月1日から2018年12月31日までに当院糖尿病代謝内分泌内科においてHbA1c、GA及び1,5-AGを施行している患者診療録の中から、患者背景（年齢、性別、罹病期間、身長、体重、既往歴、合併症、併用薬、血圧、喫煙歴）および臨床検査項目（空腹時血糖・HbA1c・GA・1,5-AG・CPR、TG、HDL-C、LDL-C、eGFR）、d-ROMsテストを調査項目とします。

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

所属: 昭和大学糖尿病代謝内分泌内科

氏名: 九島 秀樹

住所: 東京都品川区旗の台1-5-8

電話番号: 03-3784-8000

研究責任者: 九島 秀樹